

◆ リハビリテーション室

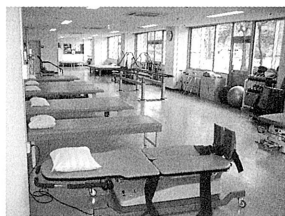
主任 山田浩二

【概 括】

当院理念である「医療・福祉を通じて安心して生活できる地域作り」にリハビリテーションの立場から貢献するために、2004度はリハビリテーション機能の充実を図った。

【作業療法・言語聴覚療法の開設】

作業療法士2名、言語聴覚士1名を採用し、5月に作業療法Ⅱ、言語聴覚療法Ⅱを開設した。



理学療法室 (133m²)



作業療法室 (88m²)



言語聴覚療法室 (25m²)

【回復期リハビリ病棟の開設】

作業療法の施設認可を受け、7月に回復期リハビリ病棟40床を開設した。(詳細は回復期リハビリ病棟項参照)

【2004年度実績】

全依頼件数は508件で、内訳は理学療法依頼460件(外来40件)、作業療法依頼125件(外来1件)、言語聴覚療法66件(外来1件)であった。診療科別依頼件数を図1に示す。

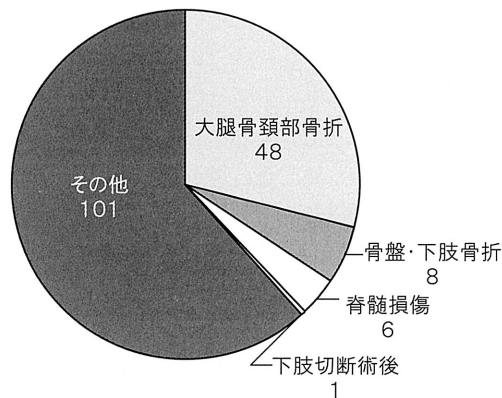
(図1)

	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
整形外科	203	18	1
神経内科	114	92	52
循環器科	54	1	4
外科	40	0	1
内科	21	0	0
リハビリテーション科	9	13	5
消化器科	13	0	0
泌尿器科	6	1	1

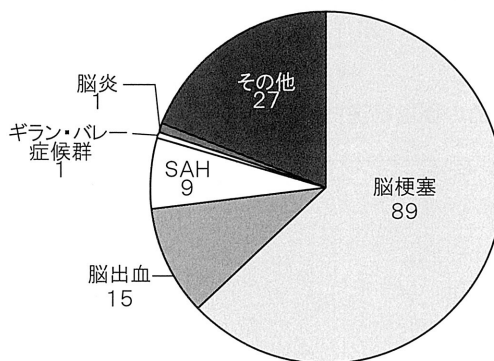
対象疾患別の整形外科では約38.8%が、回復期リハビリ病棟の適応である大腿骨頸部骨折、骨盤・下肢骨折、脊髄損傷、下肢切断術後であった。同様に神経内科では約81.0%が急性

発症した脳血管疾患(脳梗塞、脳出血、SAH、ギラン・バレー症候群、脳炎)であった。

整形外科疾患(入院)疾患別内訳



神経内科疾患(入院)疾患別内訳



7月の回復期リハビリ病棟開設以後、136名(大腿骨頸部骨折44名、急性発症した脳血管疾患78名、その他14名)の患者が回復期リハビリ病棟に転棟した。回復期リハビリ病棟を3月末で退院した104名の自宅復帰率は大腿骨頸部骨折(34名、平均年齢79.7歳)が76.7%(平均在院日数80.5日)、急性発症した脳血管疾患(62名、平均年齢75.7歳)が82.6%(平均在院日数79.8日)であった。

【今後の展望】

2005年度に理学療法士3名、作業療法士を2名採用する予定で、リハビリテーション機能の更なる充実が図られる礎ができることになる。2004年度の施設基準上の最少人数で成し得た上記状況を更に発展させていくために、院内外での研鑽に励んで行く所存である。